

1. 学校での英語教育の認知 ①実施の認知

子どもが小学校で英語教育を「受けている」と答えた保護者は、全体の約6割。また、子どもの学年、英語教育の年間時数、地域によって、保護者の認知の程度に違いがある。

Q お子様は、学校で英語教育を受けていますか。

図2-1-1 学校での英語教育実施の認知 (n=4,718)



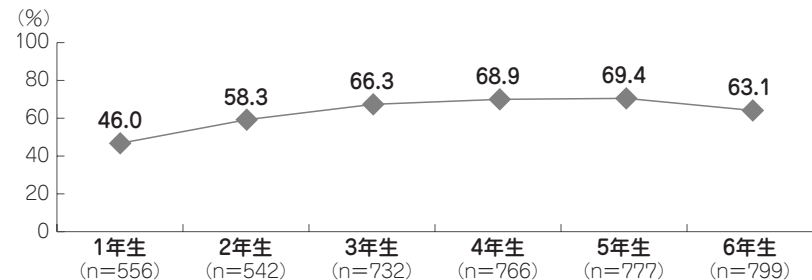
*上記の数値は、小学校英語の実施状況に関する保護者の認知であり、実際の英語教育の実施状況とは異なる(p.10の「基本属性 C.調査対象校のプロフィール」参照)。

図2-1-2 学校での英語教育実施の認知(実施学年の保護者のみ(学校調査)) (n=4,172)



*学校調査で、学校から英語教育(活動)を「実施している」と回答のあった学年の子どもの保護者のみを抽出した上で、再度、保護者の回答を集計し直したものの(p.12表C-7参照)。

図2-1-3 学校での英語教育実施の認知(学年別・実施学年の保護者のみ(学校調査))



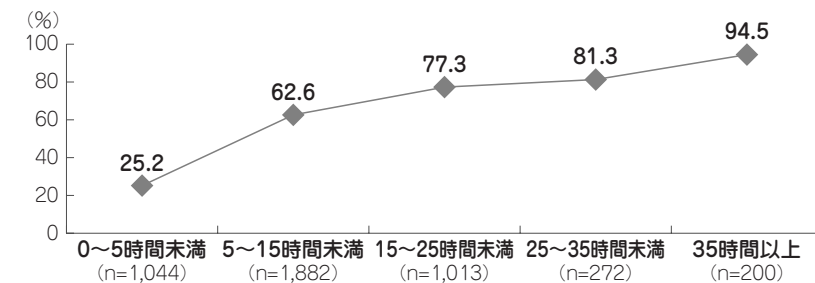
*学校で英語教育を「受けている」の%。ただし上記の数値は保護者の認知であり、実際の英語教育の実施状況とは異なる。

*学校調査で、学校から英語教育(活動)を「実施している」と回答のあった学年の子どもの保護者のみ(p.12表C-7参照)。

実際に学校で英語教育が行われているかどうかにかかわらず、子どもの通う小学校で英語教育が行われているのかを保護者にたずねた結果が図2-1-1である。保護者の約6割、57.7%が実施していると回答していた。しかし、並行して行った学校調査によれば、本調査対象のすべての小学校で何らかのかたちで英語教育は行われていたものの、学校により未実施の学年があるなど、学年ごとの実施状況が異なる。このため、学校調査で英語教育を「実施している」と回答のあった子どもの学年の保護者のみを抽出し、保護者の回答状況をみた(図2-1-2)。結果は、全体で63.0%の保護者が英語教育が行われていることを認知していたが、残りの約4割の保護者は、学校で英語教育が行われているにもかかわらず、これを認知していなかった。

また、これを学年別にみると、低学年の保護者ほど認知度は低い傾向にある(図2-1-3)。これは、低学年では英語教育を行っていても年間時数が少ない場合も多いため(「基本属性 C.調査対象校のプロフィール」参照)、保護者には認知されにくいのではないかと推察される。

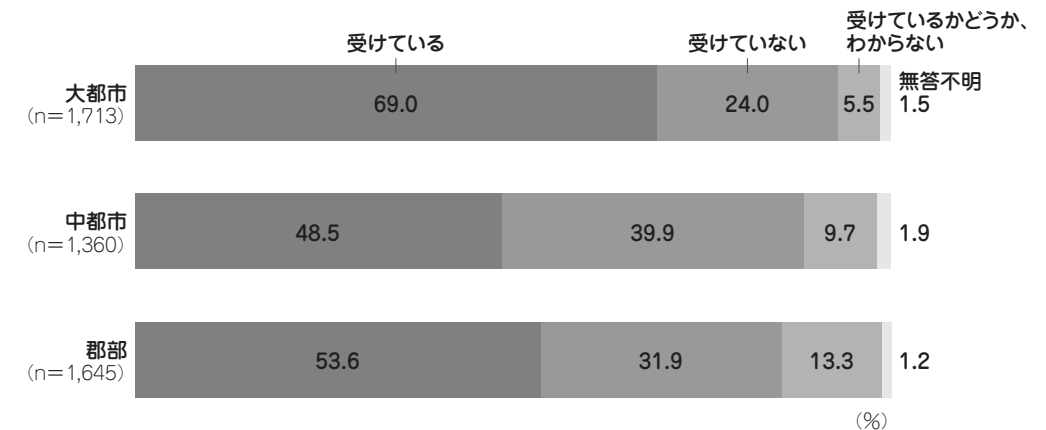
図2-1-4 学校での英語教育実施の認知(子どもの学年での年間時数別(学校調査))



*学校で英語教育を「受けている」の%。

*学校からの回答(学校調査)をもとに、子どもが学校で受けている英語教育(活動)の年間時数を把握し、保護者の回答を集計したもの(p.12図C-2参照)。

図2-1-5 学校での英語教育実施の認知(地域別)



学校での英語教育の実施状況に関する保護者の認知について、学校調査でたずねた英語教育の年間時数別に詳しくみた結果が図2-1-4である。「35時間以上」、つまり週1回程度英語教育を行っている学校では、ほぼすべての保護者が実施状況を認知しているが、「5~15時間未満」の場合は6割程度の保護者しか認知していない。

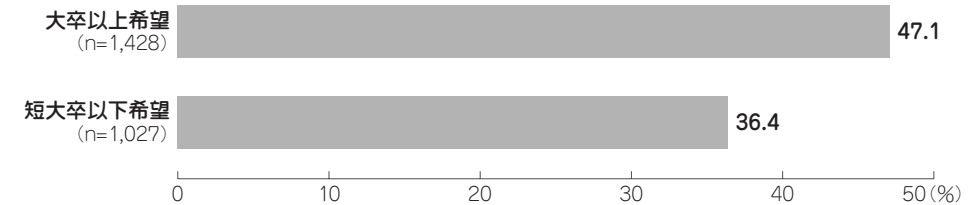
次に図2-1-5で、英語教育の実施状況に関する保護者の認知について地域別に詳しく結果をみたところ、大都市では約7割の保護者が英語教育を実施していると認知していたが、中都市・郡部では5割前後にとどまる。また、郡部では「受けているかどうか、わからない」の割合も13.3%と比較的多い。

第1章では、学校での英語教育に対する保護者の関心・期待が高いことをみてきたが、学校での英語教育の実施状況に対する保護者の認知は必ずしも高くない。学校と家庭との連携は子どもの教育を考える上で重要だが、今回の結果ではこの根本にある教育内容に関する伝達・理解が十分ではないという課題がみえてきた。

②学校での英語教育内容の認知

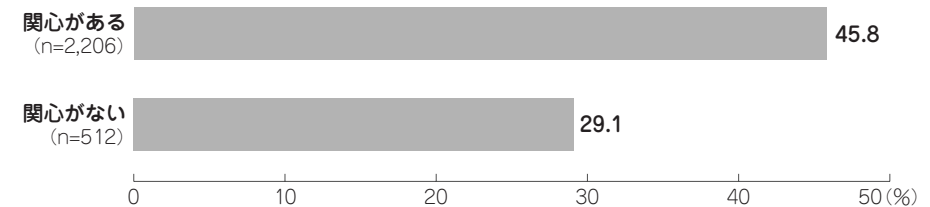
子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、内容を「知っている」と答えた保護者は4割程度。しかし、英語教育の年間時数が「35時間(週1回程度)以上」の場合は約6割まで認知が高まる。また、保護者の子どもに対する進学期待や英語教育への関心の程度によっても違いがみられる。

図2-1-8 学校での英語教育内容の認知(子どもへの進学期待別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
 *「よく知っている」+「だいたい知っている」の%。
 *「大卒以上希望」は、「お子様をどこまでの学校へ進学させたいとお考えですか」の設問で「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した場合。「短大卒以下希望」は、「中学校まで」「高校まで」「専門学校・各種学校まで」「短期大学まで」と回答した場合。

図2-1-9 学校での英語教育内容の認知(小学校英語への関心の有無別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
 *「よく知っている」+「だいたい知っている」の%。
 *「関心がある」は、「小学校の英語教育に、どのくらい関心がありますか」の設問で「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した場合。「関心がない」は、「あまり関心がない」「まったく関心がない」と回答した場合。

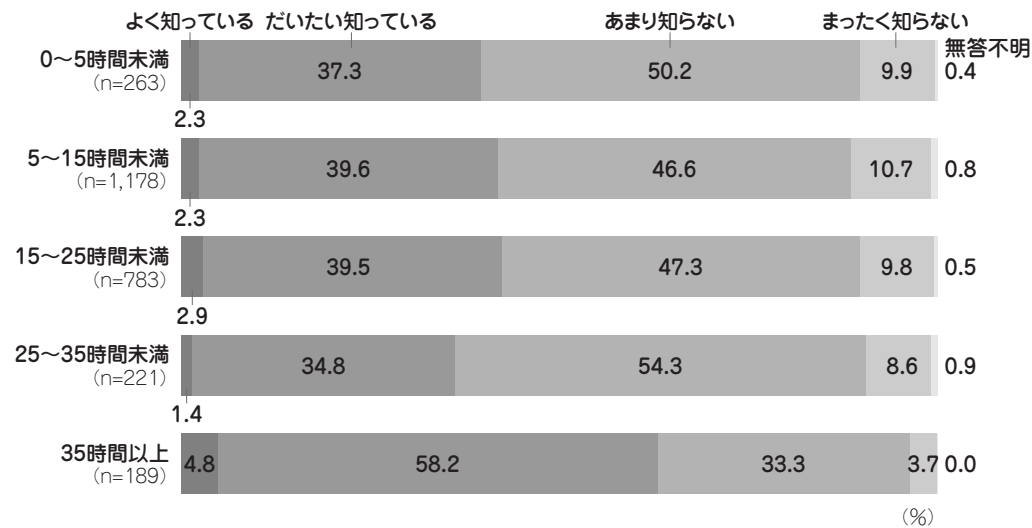
Q あなたは、お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかを知っていますか。

図2-1-6 学校での英語教育内容の認知



*英語教育を「受けている」と回答した人(2,724人)のみ対象。

図2-1-7 学校での英語教育内容の認知(子どもの学年での年間時数別(学校調査))



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
 *学校からの回答(学校調査)をもとに、子どもが学校で受けている英語教育(活動)の年間時数を把握し、保護者の回答を集計したもの(p.12図C-2参照)。

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者(図2-1-1参照)に対して、英語教育内容の認知をたずねたところ、英語教育の内容を「知っている(よく+だいたい)」と答えた保護者は4割程度だった(図2-1-6)。さらに図2-1-7で、学校での英語教育の年間時数別に詳しくみてみると、年間35時間未満である場合は英語教育の内容を認知している保護者の割合は4割前後だったが、「35時間(週1回程度)以上」の場合は約6割までその割合が高まる。このことから、一定時数以上の英語教育を行うことで教育内容への保護者の関心や認知も高まることがわかる。現状では「35時間以上」の英語教育を行っている学校はまだ少数だが、中教審外国語専門部会の報告にあったように高学年で週1時間の英語教育が必修化されれば、保護者の英語教育内容の認知や、その上での評価も変わってくる可能性がある。

ここでは、子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者の英語教育内容の認知について、さらに詳しくみてみた。子どもへの進学期待別にみたところ、「大卒以上希望」と回答した保護者の方が、「短大卒以下希望」と回答した場合よりも、英語教育内容への認知が高かった(図2-1-8)。

また、小学校英語への関心の有無別に詳しくみたところ、「関心がある」場合の方が、「関心がない」場合よりも英語教育内容への認知が高かった(図2-1-9)。

これらのことから、英語教育や子どもの教育全般への関心が高い保護者の方が、学校での英語教育の内容についても関心や認知が高いということがわかる。

2. 家庭での子どもの様子 ①家庭での英語学習の会話

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、子どもが学校での英語学習について家庭で話している割合は約6割。性別では女子の方がその割合が高く、学年別では、6年生がやや低い。

Q お子様は、学校での英語の学習について、ご家庭で話をすることがありますか。

図2-2-1 学校での英語学習に関する家庭での会話

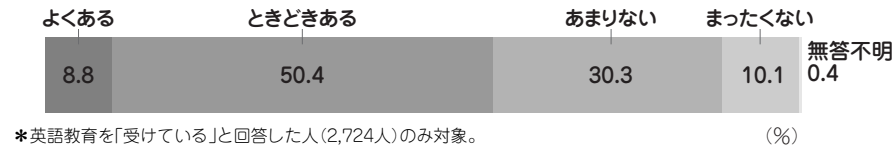


図2-2-2 学校での英語学習に関する家庭での会話 (子どもの性別)

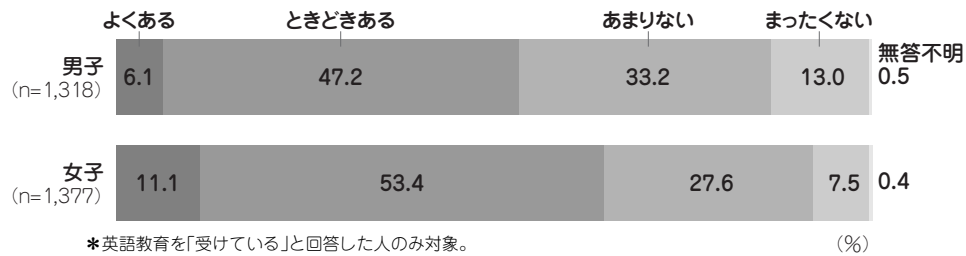
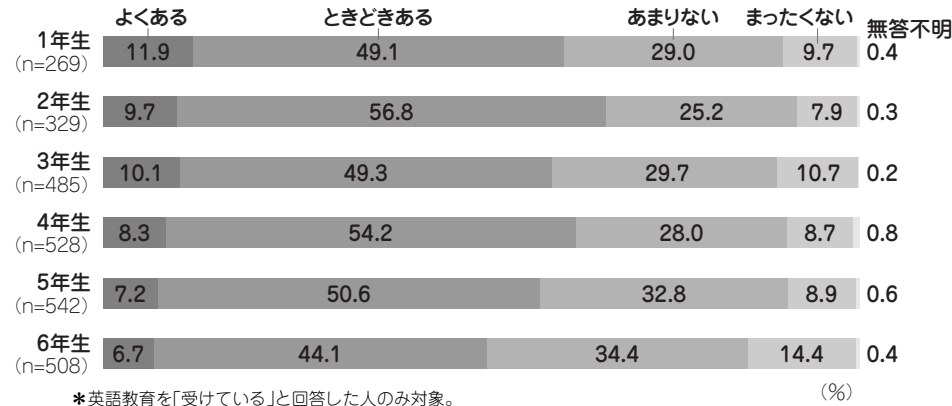


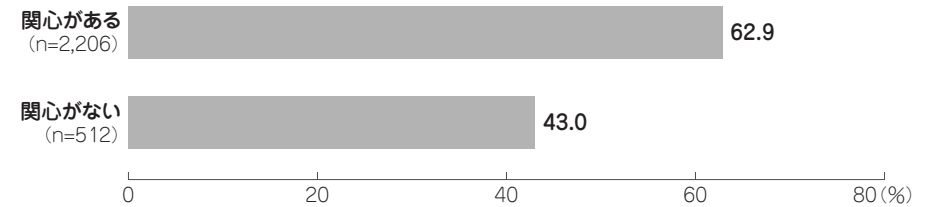
図2-2-3 学校での英語学習に関する家庭での会話 (学年別)



学校での英語学習について、家庭の中ではどの程度、話題にのぼるのだろうか。学校での英語学習について子どもが家庭で話をするところ、子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、約6割の保護者が「ある(よく+ときどき、以下同様)」と回答した(図2-2-1)。

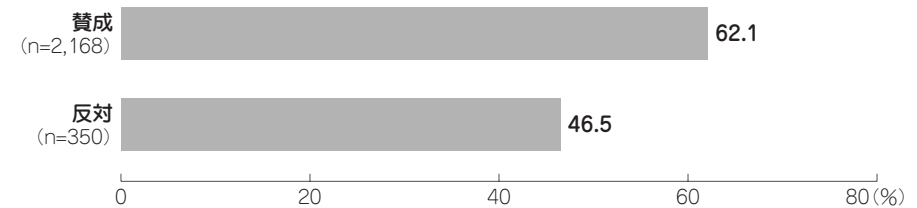
これを図2-2-2で子どもの性別に詳しくみると、女子の方が男子よりも「ある」と回答した割合が約10ポイント高い。次に、図2-2-3で学年別にみたところ、1~4年生ではだいたい6割程度の保護者が「ある」と回答しているが、6年生になると約5割となる。学校での学習に関する保護者の認知は子どもの話からの情報を元にしてしている場合が多いが、性別や学年によって違いがある状況がわかる。学校と保護者とのコミュニケーションも、これらの点を考慮して工夫する必要があるのかもしれない。

図2-2-4 学校での英語学習に関する家庭での会話 (小学校英語への関心の有無別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
*「よくある」+「ときどきある」の%。
*「関心がある」は、「小学校の英語教育に、どのくらい関心がありますか」の設問で「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した場合。「関心がない」は、「あまり関心がない」「まったく関心がない」と回答した場合。

図2-2-5 学校での英語学習に関する家庭での会話 (小学校英語の必修化の賛否別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
*「よくある」+「ときどきある」の%。
*「賛成」は、「小学校で英語教育を必修にすることについて、賛成ですか、反対ですか」の設問で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した場合。「反対」は、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した場合。

次に、この項目について、保護者の小学校英語への関心の有無別や、小学校英語必修化への賛否別に詳しくみてみた(図2-2-4、5)。保護者の小学校英語への関心の有無別については「関心がある」、小学校英語必修化への賛否別では「賛成」の方が、そうでない場合に比べて、学校での英語学習について子どもが家庭で話す割合が高かった。

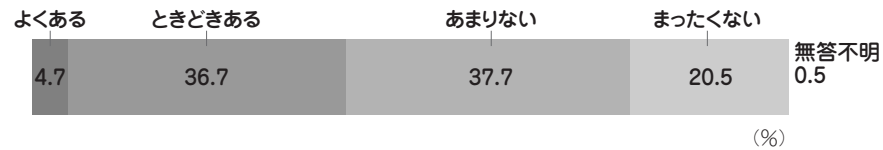
小学校英語も含め、保護者が英語教育に関心があれば、保護者から子どもに学校での様子をたずねたりすることもあるだろう。また、英語学習に限らず、保護者が関心をもって子どもの話を聞くことで、子どもも学校での学習内容などについてより積極的に話すようになり、保護者もこれによって学校での教育内容や子どもの状況についての理解が深まるという側面もあるのではないだろうか。

②家庭での学習内容の繰り返し

学校での英語学習の内容を家庭で繰り返す子どもは、子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち4割程度。低学年ほどその割合は高い。また、「英語で仕事ができるくらいの英語力」など、保護者が子どもに高い英語力を期待する場合は、学校での学習内容を子どもが家庭で繰り返す割合が高い。

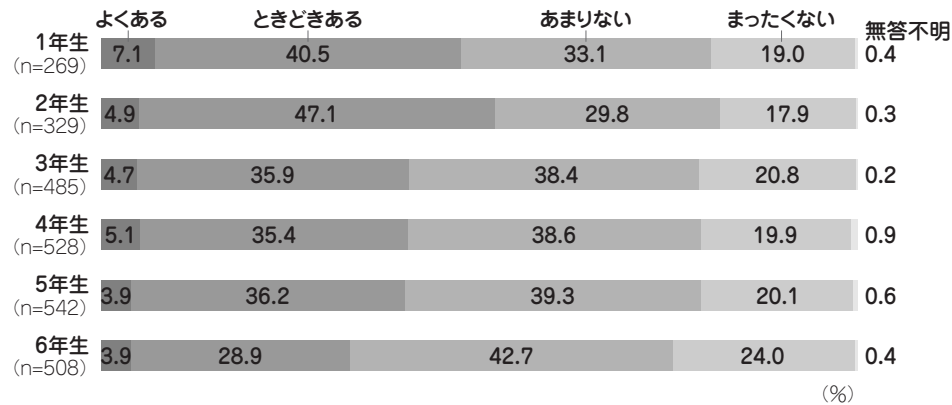
Q お子様は、学校で習った英単語やあいさつなどを、ご家庭で繰り返すことがありますか。

図2-2-6 学校での学習内容に関する家庭での反復



*英語教育を「受けている」と回答した人(2,724人)のみ対象。

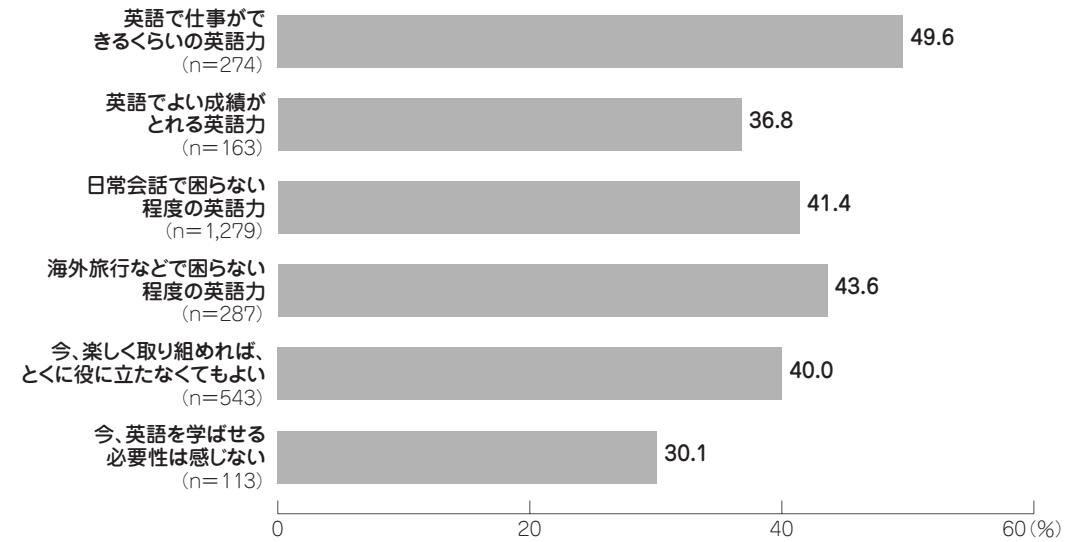
図2-2-7 学校での学習内容に関する家庭での反復(学年別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。

前項で触れたように、保護者は学校からの文書のほか、子どもの話などから学校での様子や学習内容を知ることが多いが、英語教育の場合はその日に学習した英語の単語やフレーズを子どもが家庭で繰り返すことによって、その学習内容を知ること考えられる。そこで、ここでは子どもが学校で教わった英単語やフレーズなどを家庭で繰り返すことがあるかをたずねてみたところ、「ある(よく+ときどき、以下同様)」と回答したのは約4割であった(図2-2-6)。さらに、これを図2-2-7で学年別にみたところ、「ある」の割合は1・2年生では約5割だが、6年生になると約3割となる。子どもの精神的な発達段階などの影響もあってか、高学年になるほど家庭では学校でのことも話さず、また学習内容を反復してみせるということも少なくなるようだ。高学年の保護者については、学校教育の内容について子どもから得られる情報が少ない分、学校側からの情報発信がより重要になるだろう。

図2-2-8 学校での学習内容に関する家庭での反復(子どもに期待する英語力別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。

*「よくある」+「ときどきある」の割合。

*「お子様が英語を学ぶ際、どのレベルの英語力を身につけてほしいと思いますか」の設問の回答別に集計。

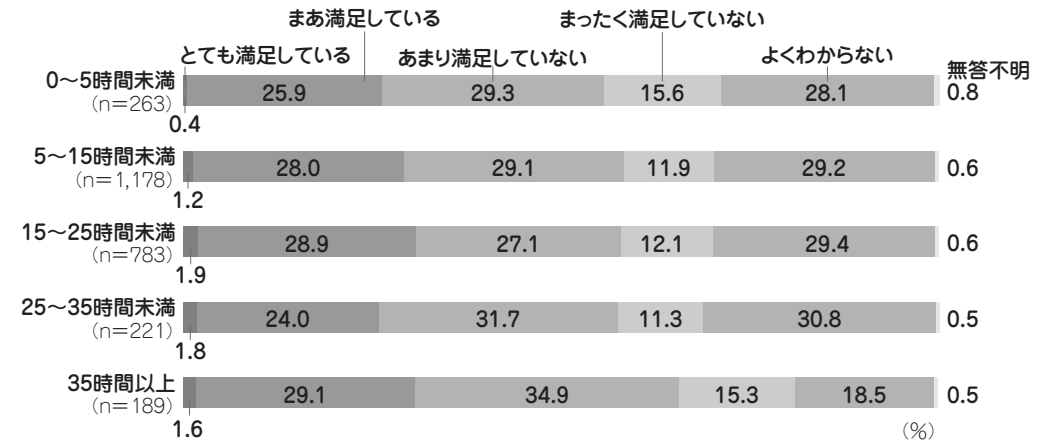
子どもが学校で教わった英単語やフレーズなどを家庭で繰り返す頻度に関係する要因は、子どもの学年以外にもあるのだろうか。他の調査項目との関係性をみてみたところ、保護者が子どもに期待する英語力によって違いがみられた(図2-2-8)。保護者が子どもに対して「英語で仕事ができるくらいの英語力」を望んでいる場合は、学校で教わったことを家庭で繰り返すことが「ある」と回答したのは半数程度だが、保護者が「今、英語を学ばせる必要性は感じない」場合は3割程度にとどまる。英語に対する関心が高い保護者の家庭であれば、子どもに学校での英語学習の内容をたずね、これに答えるかたちで子どもが学習内容を反復するということも考えられる。また、「ピグマリオン効果」*のように、保護者の期待に応えた子どもの行為とみることもできるかもしれない。

*期待することによって、相手もその期待に応えるようになる現象。

3. 学校での英語教育への満足度

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、現在の学校での英語教育に「満足している」割合は3割に満たない。ただし、学校での英語教育の内容を保護者が知っている場合、保護者が英語教育に関心がある場合は、「満足している」割合がやや高くなる。それ以外の場合は、「よくわからない」という回答が多い。

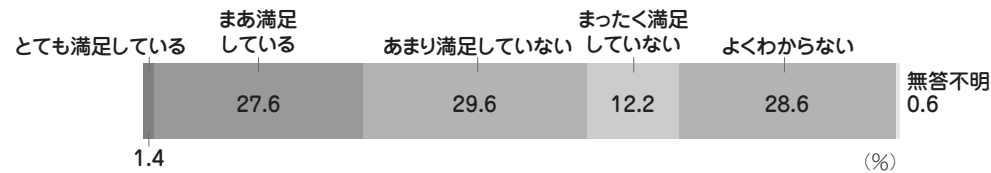
図2-3-3 学校での英語教育への満足度
(子どもの学年での年間時数別 (学校調査))



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
*学校からの回答(学校調査)をもとに、子どもが学校で受けている英語教育(活動)の年間時数を把握し、保護者の回答を集計したもの(p.12図C-2参照)。

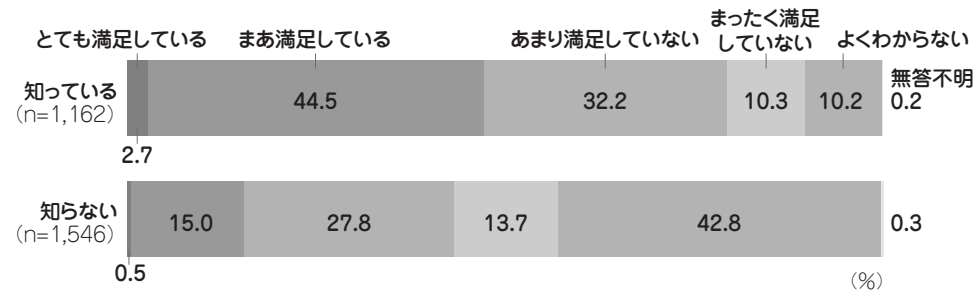
Q あなたは、お子様の学校で行われている英語教育について、満足していますか。

図2-3-1 学校での英語教育への満足度



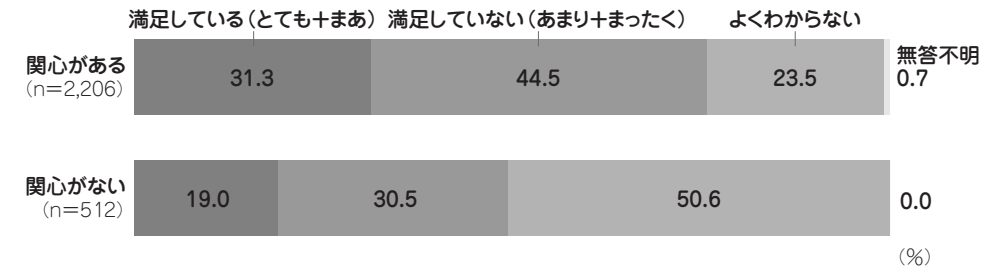
*英語教育を「受けている」と回答した人(2,724人)のみ対象。

図2-3-2 学校での英語教育への満足度 (学校での英語教育内容の認知別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
*「知っている」は、「お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかを知っていますか」の設問で、「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した場合。「知らない」は、「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した場合。

図2-3-4 学校での英語教育への満足度 (小学校英語への関心の有無別)



*英語教育を「受けている」と回答した人のみ対象。
*「関心がある」は、「小学校の英語教育に、どのくらい関心がありますか」の設問で「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した場合。「関心がない」は、「あまり関心がない」「まったく関心がない」と回答した場合。

現在の子どもが学校での英語教育に対する満足度をたずねたところ、学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、「満足している(とても+まあ、以下同様)」と回答した保護者は約3割、「満足していない(あまり+まったく、以下同様)」が約4割で、満足していない割合の方が高い(図2-3-1)。

しかし、前項まででもみたように、そもそも学校での英語教育の実施状況を知っている保護者は約6割、さらにその教育内容を知っているのはそのうちの約4割という実態であり、ここでたずねた「満足度」も、保護者がどの程度、実態を把握した上でのものかについて、詳しくみみる必要がある。そこで、図2-3-2で英語教育内容の認知別にみた。学校での英語教育の内容を保護者が「知っている」場合は、約半数が学校での英語教育に「満足している」と回答している。しかし、教育内容を「知らない」場合は、4割以上が「よくわからない」と回答しており、「満足している」という回答は約15%にとどまる。

小学校英語への保護者の満足度を高めるためには、学校での英語教育の実施状況やその内容が保護者に理解されることがまずは重要であることがわかる。そして、これは英語教育にかかわらず、学校教育全般に関わる課題であるのかもしれない。地域に「開かれた学校」となっていくには、学校・保護者双方のコミュニケーションのあり方にさらに工夫が必要なのではないだろうか。

ここでは、英語教育の年間時数別に満足度を詳しくみてみた(図2-3-3)。年間35時間未満の場合は「よくわからない」という回答が全体の約3割を占めるが、「35時間(週1回程度)以上」の場合は「よくわからない」という回答が2割を切る。しかし、「満足している」と回答した割合については、年間時数による大きな違いはみられない。

次に、保護者の小学校英語への関心の有無による満足度の違いをみたのが図2-3-4である。「関心がある」場合の方が、「関心がない」場合よりも、学校での英語教育に「満足している」と回答した割合も、また「満足していない」と回答した割合も高い。一方で、「関心がない」場合は半数以上が「よくわからない」と答えている。保護者の小学校英語に対する様々な意識の実態や意見については、前提として保護者の教育内容への関心や認知がどの程度あるのかを把握した上で検討する必要があることがわかる。翻って、保護者の側も子どもの教育に対してより関心をもって、教育内容について考えることが必要なのではないだろうか。